



◆冬の富士山、冬の大島、冬の大室山、満天の星、最高ですね。◆今年の歌会始に静岡の 84 歳の方が選ばれて「みかん」を詠っていましたね。とても現代的なおうたでした。◆そう言えば、来年から 2 月 23 日が、<ふじさんの日>として県の休日になるそう。◆昨年はここで 8 月と 12 月、かなり大きな地震を感じました。そんな私たちが他人事と思えないのが、ハイチの大地震。◆みなさんはカリブ海に浮かぶハイチという国をご存知でしたか? ◆ハイチの民話を好きでいくつも語っている私は、首都がポルトープランスと知ってはいましたが、今回テレビの映像で、その街の実際の様子を知ることになるとは。◆さて沙羅の樹としては、今年は文庫にある本をもっとよく知ろうと心に決めました。何冊読めるのか、少しでもみなさんにお薦めできる本を見つけようと思います。みなさんも面白い本みつ〜つけて!(西)



☆イベントのお知らせ☆

♥今年も 本と人、人と人をつなぐ楽しいイベントを開催したいと思います♥

5月：アートフェスティバル期間  
ロングオープン(8~16日)  
おはなし会・楽しい展示

7月：10周年記念・海の日のおはなし会  
文庫開設記念子どものためのおはなし会

8月：夏休みロングオープン(14~22日)

10月：秋の夜長のおはなし会(16日)

12月：クリスマスお楽しみ会・おはなし会  
(19日)

☆今後の開館スケジュール☆

- ◆ 2月は通常。20日(土)、21日(日)
- ◆ 3月は通常。20日(土)、21日(日)
- ◆ 4月は通常。17日(土)、18日(日)
- ◆ 5月は8日(土)~16日(日)
- ◆ 6月も通常。19日(土)、20日(土)

★文庫の時間：土曜日は午後2時~5時、  
日曜日は午前10時~午後3時

★毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

♥文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日でなく第2土曜日ということもあります)。

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》  
みんなで勉強会(おはなし・沙羅)

★2月は20日(土)11時~です。

# 沙羅の樹文庫便り

No.41

(2010年1月号)



一度、大室山の上から、パラグライダーを操って青い空を舞ってみたい! と、思いませんか!

新年のお慶び & 寒中お見舞い 申し上げます

初みくじ 神の言葉を 樹に咲かせ

(野見山朱鳥)

何十年振りかで、初詣をしました。従兄が守っている山の神社で。昔は除夜の鐘がなり終わると一斉に参詣の人々が石段を駆け上がり、お参りする人、お札を買う人、凍えた体を温めようとおでんを頬張る人で身動きがとれなかったけれど、今は、警察の人の指導で、人の雪崩で事故がおきないように、理路整然と、少しづつお参りをする善男善女。バイトの高校生の巫女さん達も慣れたもの。時代は変わったと思いました。

本年も沙羅の樹で読書の喜びを味わってください!

## ♥昨年読んだ本のなかから♥

10年1月 中西景子

いつも一ヶ月に10冊を目標に本を読むのですが、これも加齢のせいでしょうか、80冊くらいしか読めませんでした。楽しみが多くて遊びすぎ、それに少々目が疲れるようになりました。冬の暖かい日には「日向ぼっこで読書」ができれば幸せですね。

読んだ本の中から、好きな本をご紹介します。沙羅の樹で紹介したり、紹介されたりした本ばかりです。

倉本 聡著 <b>風のガーデン</b> 理論社	TVドラマの脚本。がんを宣告された医者。勝手に選んだ人生とはいえ、親子のことなど悲しい、淋しい最後です
天藤 真著 <b>大誘拐</b> 創元推理文庫	これもTVドラマになった原作。大活躍する頭のいい元気なおばあちゃんに脱帽。
谷川 俊太郎 徳永 進 共著 <b>詩と死をむすぶもの</b> 朝日新書	鳥取で死と向き合う人のための「野の花診療所」をひらいていて、死が近い人達を日常的に診ている徳永先生の言葉はあたたかい。
伊集院 静著 <b>少年譜</b> 文芸春秋	少年らしさってなんだかよくわからないけれど、なんか読んだ後のさわやかさがいいな。
アン・ロール・ポンド ウ著 伏見操訳 <b>殺人者の涙</b> 小峰書店	少年と一緒に暮らすようになった殺人者の変りようが納得できる。人間てこんな風に変えられるもの！！
佐伯 一麦著 <b>散歩歳時記</b> 日本経済新聞社	大好きな作家の一人です。何気ない日常の生活や自然の中から拾った幸せのたね。心穏やかに読めます。
斉藤 明美著 <b>最後の日本人</b> 清流出版	高峰秀子、山田太一、緒形拳、安野光雅など一本筋を通して生きる人達のすてきな生き方を教えてください。
ジョン・ポイン著 千葉 茂樹訳 <b>縞模様のパジャマの少年</b> 岩波書店	戦争の時代。塙の向こうに住む少年とことばを交わし、友情を感じていくなかで、この結末は恐ろしい。

## 徒然なるままに、未読の本の外側をいくつか・・・

★本屋大賞をとって、どなたか早速寄付してくださいった本に湊かなえ『告白』があります。73年生まれの主婦小説家は、テレビで時間を上手に使うマルチ主婦ぶりをお話してくれたので、時間がないとぶつぶつ言う私を攻めるいい材料を主人に与えてくれました。未読です、どなたか紹介文をお願いします。でも最近売れるとすぐ、映像化されますね、松たか子主演。次回作は『Nのために』。★暮れに書評家が新聞に載せていた年間のお勧めからちょっと惹かれた本を今回入れてみました。『リライブ』は短篇集。66年生きてきて、去年は私も生き直したい！と切に思ったときがありました。もっとも、すでにその気力体力が伴いませんが。私はタイトルに数字が出てると惹かれるらしい。『1/4のオレンジ5切れ』とか。『四とそれ以上の国』のいいしんじは息子と同年。おまけに3年かけてひたすら歩いた四国が舞台、と来たら読んでみたい。読み始めたら止まらない書き出し、です。でも、あとであとで。四国というところは、人間のほかに何かが棲んでいると思ってます、実感。★何だかもっと異界に入り込みそうなのが、『海底八幡宮』逆説の神話体系？Nさんなら読まない。Mさんに読んでもらおうっと。★09の子どもの本(いつもたくさん寄贈して下さるHさんにちょっとお尋ねしました) **絵本**『クモのいと』(ポプラ社)『やめて!』(徳間書店)『あめ ぼ ぼ』(くもん出版)『雨をよぶ龍』『かくかくしかく』(童心社)『おとうさんのちず』『おじいちゃんとテオのすてきな庭』(あすなる書房)『パパがやいたアップルパイ』『むこう岸には』(ほるぷ出版) **幼年読みもの**『グラタンおばあさんとアヒル』(小峰書店)『チュウチュウ通り一番地シリーズ』(あすなる書房)『しょうぼうしよは大いそがし』(徳間書店) **高学年～**『ビーバー続のしるし』『テレビのむこうの謎の国』(あすなる書房)『ぼくだけの山の家』(偕成社)『園芸少年』(講談社)『すりばちの底にあるというボタン』(講談社)『明日へのリズム』(ポプラ社) ★高学年の続きは次回。下線は文庫にある本(沙羅)

## 最近お借りした本についての読後感

10.1.15 By 森林浴

また今年も失敗、と思ったのはお正月前に6冊も欲張ってお借りしてしまったこと。お正月前は大掃除とかなんとかに結構時間をとられてしまい、お正月になれば子や孫がわっと押しかけてきて、本なんて読む暇はほとんどないこと、1月は町内自治会のお手伝いも2月の総会を控えている出でくること、など、分かりきったことだったのに。

お借りしたのは、

①香山リカ著「しがみつかない生き方」②内田樹著「日本辺境論」③半藤 一利著「昭和史(戦後篇)」④堀江敏幸著「未見坂」⑤トニー・パーカー著 沢木耕太郎訳「殺人者たちの午後」⑥ジェニファー・アッカマン著 鍛原多恵子訳「からだの一日」ということで、とりあえず、①と②の読書感だけをまとめました。

①香山リカの「しがみつかない生き方」は最終章を<勝間 和代を目指さない>というタイトルにしたせいで、えらく目立つ本になってしまいました。正月のたけしの司会するTV番組でこの両名の対決が放送されたのには驚き呆れ、TVというもののいやらしさ丸出しと痛感。よく読めば、お二人の言い分はそれぞれ両立できるものだと思います。勝間さんの「起きていることはすべて正しい」なんてのは、この世では現実にあることを受け入れ、その重みを直視するしかない、というリアリズムの立場からすれば、見事な一言と言えるし、一方香山さんの“普通の幸せが一番、いろんなものにしがみつかないようにしよう”というも真理なんですね。それにしても、最近勝間さんの「女は結局キレイが勝ち」とかいう本も出たようですが、これはちょっと興ざめな感じ!

※実は②も原稿いただいたのですが、森林浴さんにお願いの催促は悪いなあと、何とか埋め草して文庫便りを仕上げた後だったんです、今朝メールを開けたのが、それで、どう工夫しても②まで入りませんでした。ごめんなさい。森林浴さん、次回②を載せませす、③からも寄稿お願いします。楽しみにしております(沙羅の樹)